

vCenter Server Appliance Configuration

Update 1

VMware vSphere 6.0

VMware ESXi 6.0

vCenter Server 6.0



vmware®

You can find the most up-to-date technical documentation on the VMware website at:

<https://docs.vmware.com/>

If you have comments about this documentation, submit your feedback to

docfeedback@vmware.com

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

Copyright © 2015-2018 VMware, Inc. All rights reserved. [Copyright and trademark information.](#)

Contents

vCenter Server Appliance の構成について	5
更新情報	6
1 vCenter Server Appliance の概要	7
2 アプライアンス管理インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する	9
vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン	9
vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認	10
vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン	11
サポート バンドルのエクスポート	11
SSH と Bash シェル アクセスの有効化または無効化	11
DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定	12
システムのタイムゾーンおよび時刻同期の設定の構成	13
root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更	14
3 vSphere Web Client を使用して vCenter Server Appliance を設定する	16
Active Directory ドメインへの vCenter Server Appliance の参加	17
Active Directory ドメインからの離脱	19
SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加	20
vCenter Server Appliance へのアクセス設定の編集	20
Edit the DNS and IP Address Settings of the vCenter Server Appliance	21
vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集	23
サービスの起動設定の編集	24
vCenter Server Appliance でのサービスの開始、停止、または再起動	25
サービスおよびノードの健全性ステータスの表示	25
サービスの設定の編集	26
サポート バンドルのエクスポート	27
vCenter Server Appliance のログ ファイルの別のマシンへのリダイレクト	28
4 アプライアンス シェルを使用して vCenter Server Appliance を設定する	30
アプライアンス シェルへのアクセス	30
アプライアンス シェルからの Bash シェル アクセスの有効化	31
コマンドを編集するためのキーボード ショートカット	31
アプライアンスのプラグインおよび API コマンドに関するヘルプの表示	32
vCenter Server Appliance シェルのプラグイン	33
vCenter Server Appliance シェルの API コマンド	34
showlog プラグインを使用したログ ファイルの参照	38

vCenter Server Appliance の SNMP の構成	39
ポーリングを行う SNMP エージェントの構成	39
SNMP v1 および v2c 用の vCenter Server Appliance の構成	39
SNMP v3 用の vCenter Server Appliance の構成	41
通知をフィルタリングするように SNMP エージェントを構成する	45
SNMP 管理クライアント ソフトウェアの構成	45
工場出荷時の設定への SNMP 設定のリセット	46
vCenter Server Appliance の時刻同期設定の構成	46
VMware Tools の時刻同期の使用	47
vCenter Server Appliance 構成内の NTP サーバの追加または置換	47
vCenter Server Appliance と NTP サーバとの時刻同期	48
vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの管理	49
vCenter Server Appliance のユーザー ロール	49
vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウント リストの取得	49
vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの作成	49
vCenter Server Appliance のローカル ユーザー パスワードの更新	50
vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの更新	50
vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの削除	51
vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視	52
サービスのリソース使用量を監視する vimtop プラグインの使用	53
対話モードでの vimtop を使用したサービスの監視	53
対話モードのコマンドライン オプション	53
vimtop の対話モードの単一キー コマンド	54
5 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する	56
ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへのログイン	56
root ユーザーのパスワードの変更	57
vCenter Server Appliance の管理ネットワークの構成	57
vCenter Server Appliance の管理ネットワークの再起動	58
アプライアンス Bash シェルへのアクセスの有効化	59
トラブルシューティングのためのアプライアンス Bash シェルへのアクセス	59
トラブルシューティングのための vCenter Server サポート バンドルのエクスポート	59

vCenter Server Appliance の構成について

『vCenter Server Appliance の構成』では、vCenter Server Appliance の構成に関する情報を提供します。

対象読者

この情報は、vCenter Server Appliance を使用する方を対象としています。記載されている情報は、Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想マシン テクノロジーおよびデータセンターの運用に詳しい方を対象としています。

VMware の技術ドキュメントの用語集

VMWare の技術ドキュメントには、新しい用語などを集約した用語集があります。当社の技術ドキュメントで使用する用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

更新情報

『vCenter Server Appliance の構成』は、製品のリリースごとに、または必要に応じて更新されます。

『vCenter Server Appliance の構成』の更新履歴については、次の表をご確認ください。

リビジョン	説明
JP-001785-07	<ul style="list-style-type: none">■ 1 章 vCenter Server Appliance の概要: アプライアンスにディスク容量を追加できることを記載。■ トピック Active Directory ドメインへの vCenter Server Appliance の参加 のステップ 6: [組織単位] テキスト ボックスの値の形式を訂正。■ DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定: プライマリ ネットワークの識別子は vCenter Server Appliance のデプロイ後に変更できないことを記載。
JP-001785-06	vCenter Server Appliance シェルのプラグイン : cmsso-util および psc-restore プラグインを追加。
JP-001785-05	Active Directory ドメインへの vCenter Server Appliance の参加 : vSphere Web Client と vSphere Client を使用して vCenter Server インスタンスに接続するときに Active Directory ユーザーに対して Windows セッション認証 (SSPI) を有効にするための情報を変更。
JP-001785-04	DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定 、 Edit the DNS and IP Address Settings of the vCenter Server Appliance : アプライアンスの IP アドレスを変更するための前提条件を追加。
JP-001785-03	vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン : Internet Explorer の使用時に TLS 1.0 および 1.1 を有効にするための前提条件を追加。
JP-001785-02	vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの作成 : 必須のパラメータを追加してコマンドの構文を修正。
JP-001785-01	<ul style="list-style-type: none">■ 1 章 vCenter Server Appliance の概要: メモリと CPU の追加を除いて vCenter Server Appliance のカスタマイズがサポートされないことを記載。■ Active Directory ドメインへの vCenter Server Appliance の参加: この手順が Active Directory ドメインのユーザーとグループを vCenter Single Sign-On ドメインに関連付けること、読み取り専用ドメイン コントローラ (RODC) を含んだ Active Directory ドメインがサポートされないこと、および組織単位のテキスト ボックスに組織単位の標準名が必要であることを記載。また、手順 11 に、参加した Active Directory ドメインのアイデンティティ ソースの設定に関する情報を追加。
JP-001785-00	初期リリース。

vCenter Server Appliance の概要

vCenter Server Appliance は事前構成された Linux 仮想マシンで、Linux 上での vCenter Server と関連サービスの実行用に最適化されています。

vCenter Server Appliance インストーラのダウンロード、VMware クライアント統合プラグインのインストール、vCenter Server Appliance のデプロイなどを行うことができます。アプライアンスのデプロイ中に、外部 Platform Services Controller を備えた vCenter Server Appliance をデプロイするか、Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance をデプロイするかを選択できます。vCenter Server Appliance を、別の vCenter Server Appliance または Windows 上の vCenter Server と同じ vCenter Single Sign-On ドメインに参加させることもできます。『vSphere のインストールとセットアップ』を参照してください。

vCenter Server Appliance は、ESXi 5.0 以降でサポートされています。アプライアンスのパッケージには、次のソフトウェアが含まれています。

- SUSE Linux Enterprise Server 11 Update 3 for VMware (64 ビット版)。
- PostgreSQL データベース。
- vCenter Server 6.0 および vCenter Server 6.0 コンポーネント。
- vCenter Server の実行に必要なサービス (vCenter Single Sign-On、ライセンス サービス、VMware Certificate Authority など) がすべて含まれる Platform Services Controller。

Platform Services Controller の詳細については、『vSphere のインストールとセットアップ』を参照してください。

vCenter Server Appliance のカスタマイズはサポートされません (メモリ、CPU、ディスク容量の増設を除く)。

vCenter Server Appliance には、以下のデフォルトのユーザー名があります。

- 仮想アプライアンスのデプロイ時に設定したパスワードを持つ root ユーザー。root ユーザーは、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスとアプライアンスの Linux オペレーティング システムへのログインに使用します。

重要: vCenter Server Appliance の root アカウントのパスワードは、デフォルトでは 365 日後に期限が切れます。root パスワードの変更方法とパスワードの有効期限設定の指定方法については、[root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更](#)を参照してください。

- administrator@your_domain_name。これは、アプライアンスのデプロイ時に設定したパスワードとドメイン名を持つ vCenter Single Sign-On ユーザーです。

vSphere 5.5 では、このユーザーは administrator@vsphere.local です。vSphere 6.0 では、vCenter Server をインストールするときまたは、新しい Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance をデプロイするときに、vSphere ドメインを変更できます。Microsoft Active Directory や OpenLDAP のドメイン名と同じドメイン名を使用しないでください。

最初は、ユーザー administrator@your_domain_name のみが、vCenter Server Appliance 内の vCenter Server システムにログインできる権限を持っています。デフォルトでは、administrator@your_domain_name ユーザーは SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであり、追加ユーザーとグループが定義されているアイデンティティソースを vCenter Single Sign-On に追加したり、ユーザーおよびグループに権限を付与したりできます。詳細については、『vSphere セキュリティ』を参照してください。

vCenter Server Appliance のアクセスと vCenter Server Appliance 設定の編集は、次の 4 つの方法で行うことができます。

- vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用する。

vCenter Server Appliance のシステム設定（アクセス、ネットワーク、時刻同期、root パスワード設定など）を編集できます。これは、アプライアンスを編集するための推奨される方法です。

- vSphere Web Client を使用する。

vCenter Server Appliance のシステム設定に移動し、このアプライアンスを Active Directory ドメインに参加させたり、vCenter Server Appliance で実行されているサービスを管理したり、アクセス、ネットワーク、ファイアウォール設定などのさまざまな設定を変更したりできます。

- アプライアンス シェルを使用する。

TTY1 を使用してコンソールにログインしたり、SSH を使用して vCenter Server Appliance で構成、監視、トラブルシューティングのコマンドを実行したりできます。

- ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用する。

TTY2 を使用して vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインし、root ユーザーのパスワードの変更、ネットワーク設定、Bash シェルまたは SSH へのアクセスを有効にすることができます。

アプライアンス管理インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する

2

組み込みの Platform Services Controller を使用する vCenter Server、外部 Platform Services Controller を使用する vCenter Server、または Platform Services Controller を含む vCenter Server Appliance をデプロイした後に、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインしてアプライアンスの設定を編集できます。

vCenter Server Appliance へのパッチ適用および vCenter Server Appliance のパッチの自動チェックの有効化については、『vSphere のアップグレード』ドキュメントを参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン](#)
- [vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認](#)
- [vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン](#)
- [サポート バンドルのエクスポート](#)
- [SSH と Bash シェル アクセスの有効化または無効化](#)
- [DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定](#)
- [システムのタイムゾーンおよび時刻同期の設定の構成](#)
- [root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更](#)

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインして、vCenter Server Appliance の設定を行います。

注: ログイン セッションは、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを 10 分間アイドル状態で放置すると、期限切れになります。

前提条件

- vCenter Server Appliance が正常にデプロイされ、実行されていることを確認します。

- Internet Explorer を使用する場合は、セキュリティ設定で TLS 1.0 と 1.1 が有効になっていることを確認します。

手順

- 1 Web ブラウザで、vCenter Server Appliance 管理インターフェイス (<https://appliance-IP-address-or-FQDN:5480>) に移動します。
- 2 root としてログインします。

デフォルトの root パスワードは、vCenter Server Appliance のデプロイ時に設定したパスワードです。

vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用し、vCenter Server Appliance の全体的な健全性ステータスと健全性メッセージを確認できます。

vCenter Server Appliance の全体的な健全性ステータスは、メモリ、CPU、ストレージ、ネットワークなどのハードウェア コンポーネントのステータスと、使用可能なパッチの最終チェックに従ってソフトウェア パッケージが最新かどうかを示す更新コンポーネントのステータスに基づいています。

重要: 使用可能なパッチの定期的なチェックを実行しないと、更新コンポーネントの健全性ステータスが旧バージョンになることがあります。vCenter Server Appliance パッチのチェック方法と vCenter Server Appliance パッチの自動チェックを有効にする方法の詳細については、*vSphere のアップグレード*を参照してください。

個々のステータスを表示する方法の詳細については、[vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視](#)を参照してください。

前提条件



root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**サマリ** をクリックします。
- 2 [健全性ステータス] ペインで、[全体的なステータス] バッジを確認します。

表 2-1. 健全性ステータス

バッジ アイコン	説明
	良好。アプライアンス内のすべてのコンポーネントが正常です。
	警告。アプライアンス内の 1 つ以上のコンポーネントがすぐに過負荷状態になる可能性があります。詳細は [健全性メッセージ] ペインで確認できます。
	アラート。アプライアンス内の 1 つ以上のコンポーネントの機能が低下する可能性があります。非セキュリティパッチを使用できる可能性があります。詳細は [健全性メッセージ] ペインで確認できます。

バッジ アイコン	説明
	最重要。アプライアンス内の 1 つ以上のコンポーネントが使用不能状態になっている可能性があり、アプライアンスはすぐに応答不能になる可能性があります。セキュリティ パッチを使用できる可能性があります。詳細は [健全性メッセージ] ペインで確認できます。
	不明。データが使用できません

vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、実行中の仮想マシンを再起動またはパワーオフできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**サマリ** をクリックします。
- 2 仮想マシンを再起動またはパワーオフするには、**再起動** または **シャットダウン** をクリックします。
- 3 確認ダイアログ ウィンドウで **はい** をクリックして操作を確認します。

サポート バンドルのエクスポート

アプライアンスで実行中の vCenter Server インスタンスのログ ファイルが含まれているサポート バンドルをエクスポートできます。ログをマシン上でローカルに分析することも、バンドルを VMware サポートに送付することもできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**サマリ** をクリックします。
- 2 **サポート バンドルの作成** をクリックし、ローカル マシン上にバンドルを保存します。

サポート バンドルは、.tgz ファイルとしてローカル マシンにダウンロードされます。

SSH と Bash シェル アクセスの有効化または無効化

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、アプライアンスへのアクセス設定を編集できます。

アプライアンスへの SSH 管理者ログインを有効または無効にできます。一定期間、vCenter Server Appliance Bash シェルへのアクセスを有効にすることもできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**アクセス** をクリックしてから **編集** をクリックします。
- 2 vCenter Server Appliance のアクセス設定の編集

オプション	説明
SSH ログインの有効化	vCenter Server Appliance への SSH アクセスを有効にします。
Bash シェルの有効化	入力する時間(分)中、vCenter Server Appliance への Bash シェル アクセスを有効化します。

- 3 **OK** をクリックし、設定を保存します。

DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定

vCenter Server Appliance に対して、固定 IPv4/IPv6 アドレスの割り当て、DNS 設定の編集、プロキシ設定の定義などを行うことができます。

前提条件

- アプライアンスの IP アドレスを変更する場合は、アプライアンスのシステム名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。アプライアンスのデプロイ中にシステム名として IP アドレスを設定すると、システム名がプライマリ ネットワークの識別子として使用されるので、デプロイ後に IP アドレスを変更できなくなります。

注: プライマリ ネットワークの識別子を vCenter Server Appliance のデプロイ後に変更することはできません。

- root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**ネットワーク** をクリックします。
- 2 [ホスト名]、[ネーム サーバ]、および [ゲートウェイ] ペインで、**編集** をクリックします。
- 3 [ネーム サーバ] セクションで、DNS 設定をします。

オプション	説明
DNS 設定の自動取得	ネットワークから DNS 設定を自動的に取得します。
設定を手動で入力してください	DNS アドレス設定を手動で設定できます。このオプションを選択する場合は、次の情報を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 優先 DNS サーバの IP アドレス。 ■ 代替 DNS サーバの IP アドレス。

- 4 [ネットワーク インターフェイス] ペインで、**編集** をクリックします。

- 5 ネットワーク インターフェイス名を展開して、IP アドレス設定を編集します。
- 6 IPv4 アドレス設定を編集します。

オプション	説明
IPv4 設定がありません	IPv4 アドレスを無効にします。アプライアンスでは、IPv6 アドレスのみが使用されます。
IPv4 設定を自動的に取得します	ネットワークからアプライアンスの IPv4 アドレスを自動的に取得します。
次の IPv4 設定を使用	手動で設定した IPv4 アドレスを使用します。IP アドレス、サブネット プリフィックス長、およびデフォルト ゲートウェイを入力する必要があります。

- 7 IPv6 設定を編集します。

オプション	説明
DHCP を使用して IPv6 設定を自動的に取得	DHCP を使用することで、ネットワークからアプライアンスに IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
ルーターのアドバタイズを使用して IPv6 設定を自動的に取得	ルーターのアドバタイズを使用することにより、ネットワークから自動的にアプライアンスに IPv6 アドレスを割り当てます。
固定 IPv6 アドレス	手動で設定した固定 IPv6 アドレスを使用します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 追加アイコンをクリックします。 2 IPv6 アドレスとサブネット プリフィックス長を入力します。 3 OK をクリックします。 4 (オプション)デフォルト ゲートウェイを編集します。

アプライアンスは、DHCP およびルーターのアドバタイズの両方を使用して IPv6 設定を自動的に取得するように設定できます。同時に、固定 IPv6 アドレスを割り当てることも可能です。

- 8 プロキシ サーバを構成するには、[プロキシ設定] ペインで **編集** をクリックします。
- 9 プロキシ サーバを使用する を選択し、プロキシ サーバ設定を入力し、**OK** をクリックします。

システムのタイム ゾーンおよび時刻同期の設定の構成

vCenter Server Appliance のデプロイ後、システムのタイム ゾーンおよび時刻同期の設定を変更できます。

vCenter Server Appliance をデプロイする際、アプライアンスが実行されている ESXi ホストの時刻設定を使用するか、NTP サーバに基づいて時刻同期を構成します。vSphere ネットワークの時刻設定が変更された場合、アプライアンスのタイム ゾーンおよび時刻同期の設定を編集できます。

重要: vCenter Server Appliance が外部の Platform Services Controller を使用している場合、vCenter Server Appliance と Platform Services Controller の両方が同じ時刻同期ソースを使用するように構成する必要があります。そうしないと、vCenter Single Sign-On による認証が失敗することがあります。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**時刻** をクリックします。

2 システムのタイムゾーン設定を構成します。

- a [タイムゾーン] ペインで、**編集** をクリックします。
- b **タイムゾーン** ドロップダウン メニューで場所またはタイムゾーンを選択して、**OK** をクリックします。

3 時刻同期の設定を構成します。

- a [時刻同期] ペインで、**編集** をクリックします。
- b **モード** ドロップダウン メニューで、時刻同期方法を構成します。

オプション	説明
無効	時刻同期なし。システムのタイムゾーン設定を使用します。
ホスト	VMware Tools の時刻同期を有効にします。VMware Tools を使用して、アプライアンスの時刻を ESXi ホストの時刻と同期します。
NTP	NTP 同期を有効にします。1 つ以上の NTP サーバの IP アドレスまたは FQDN を入力する必要があります。

- c **OK** をクリックします。

root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更

vCenter Server Appliance をデプロイする際に設定する root ユーザーの初期パスワードは、デフォルトでは 365 日後に期限が切れます。セキュリティ上の理由により、パスワード有効期限設定とともに root パスワードを変更できます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、**管理** をクリックします。
- 2 [root パスワードの変更] ペインで、root パスワードを変更して **送信** をクリックします。

3 root ユーザーのパスワード有効期限設定を構成します。

- a [root パスワード期限切れ] セクションで、パスワード有効期限ポリシーを設定します。

オプション	説明
はい	<p>root ユーザーのパスワードは、一定の日数後に期限切れになります。次の情報を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ root パスワードの有効性(日数) パスワードが期限切れになるまでの日数。■ 期限切れ警告の電子メール 有効期限の前に vCenter Server Appliance によって警告メッセージが送信される電子メール アドレス。
いいえ	root ユーザーのパスワードは無期限です。

- b [パスワード有効期限設定] ペインで **送信** をクリックして、新しいパスワード有効期限設定を適用します。
[パスワードの有効期限] テキスト ボックスに、新しい有効期限日が表示されます。

vSphere Web Client を使用して vCenter Server Appliance を設定 する

3

vCenter Server Appliance をデプロイした後は、アプライアンスを Active Directory ドメインに参加させる、vCenter Server Appliance で実行されているサービスを管理する、ネットワークやその他の設定などの構成処理を vSphere Web Client で行うことができます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [Active Directory ドメインへの vCenter Server Appliance の参加](#)
- [Active Directory ドメインからの離脱](#)
- [SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加](#)
- [vCenter Server Appliance へのアクセス設定の編集](#)
- [Edit the DNS and IP Address Settings of the vCenter Server Appliance](#)
- [vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集](#)
- [サービスの起動設定の編集](#)
- [vCenter Server Appliance でのサービスの開始、停止、または再起動](#)
- [サービスおよびノードの健全性ステータスの表示](#)
- [サービスの設定の編集](#)
- [サポート バンドルのエクスポート](#)
- [vCenter Server Appliance のログ ファイルの別のマシンへのリダイレクト](#)

Active Directory ドメインへの vCenter Server Appliance の参加

Platform Services Controller アプライアンスまたは Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance を Active Directory ドメインに参加させることで、そのドメインのユーザーとグループをご利用の vCenter Single Sign-On ドメインに関連付けることができます。

重要: 読み取り専用ドメイン コントローラ (RODC) を含んだ Active Directory ドメインに Platform Services Controller アプライアンスまたは Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance を参加させることはサポートされません。Platform Services Controller または Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance を参加させることができるのは、書き込み可能なドメイン コントローラを含んだ Active Directory ドメインだけです。

vCenter Server のコンポーネントにアクセスするための権限を Active Directory ドメインのユーザーとグループに対して構成するには、その関連する組み込み(または外部) Platform Services Controller インスタンスを Active Directory ドメインに参加させる必要があります。

たとえば、Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに対し、Active Directory ユーザーが vSphere Web Client から Windows セッション認証 (SSPI) でログインできるようにするには、vCenter Server Appliance を Active Directory ドメインに参加させたいうえで、このユーザーに管理者ロールを割り当てる必要があります。外部の Platform Services Controller アプライアンスを使用した vCenter Server インスタンスに対し、Active Directory ユーザーが vSphere Web Client から SSPI でログインできるようにするには、Platform Services Controller アプライアンスを Active Directory ドメインに参加させたいうえで、このユーザーに管理者ロールを割り当てる必要があります。

注: vCenter Server インスタンスに対し、Active Directory ユーザーが vSphere Client から SSPI でログインできるようにするには、vCenter Server インスタンスを Active Directory ドメインに参加させる必要があります。外部 Platform Services Controller を使用した vCenter Server Appliance を Active Directory ドメインに参加させる方法については、VMware のナレッジベースの記事 (<http://kb.vmware.com/kb/2118543>) を参照してください。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。

アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。

- 2 [デプロイ] で、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、**管理** タブをクリックします。
- 5 [詳細] で、**Active Directory** を選択し、**参加** をクリックします。

6 Active Directory の詳細情報を入力します。

オプション	説明
ドメイン	Active Directory のドメイン名 (mydomain.com など)。このフィールドには IP アドレスを入力しないでください。
組織単位	オプション。OU の完全な LDAP FQDN。たとえば、OU=Engineering,DC=mydomain,DC=com など。 重要: LDAP を十分に理解している場合のみ、このフィールドを使用してください。
ユーザー名	ユーザー プリンシパル名 (UPN) 形式のユーザー名 (jchin@mydomain.com など)。 重要: DOMAIN\UserName などのダウンレベル ログイン名形式はサポートされていません。
パスワード	ユーザーのパスワード。

7 OK をクリックし、vCenter Server Appliance を Active Directory ドメインに参加させます。

メッセージが表示されることなく処理が成功し、[参加] ボタンが [離脱] に変わります。

8 変更を適用するため、編集したノードを右クリックし、再起動 をクリックしてアプライアンスを再起動します。

重要: アプライアンスを再起動しないと、vSphere Web Client を使用しているときに問題が発生する場合があります。

9 管理 > シングル サインオン > 構成 に移動します。

10 アイデンティティ ソース タブで、アイデンティティ ソースの追加 アイコンをクリックします。

11 Active Directory (統合 Windows 認証) を選択し、参加した Active Directory ドメインのアイデンティティ ソースの設定を入力して、OK をクリックします。

表 3-1. アイデンティティ ソース設定の追加

フィールド	説明
ドメイン名	ドメインの FQDN。このフィールドには IP アドレスを入力しないでください。
マシン アカウントを使用	ローカル マシン アカウントを SPN として使用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択する場合は、ドメイン名のみを指定します。マシン名を変更する予定がある場合は、このオプションを選択しないでください。
サービス プリンシパル名 (SPN) を使用	ローカル マシン名を変更する予定がある場合は、このオプションを選択します。SPN、アイデンティティ ソースで認証できるユーザー、およびそのユーザーのパスワードを指定する必要があります。
サービス プリンシパル名 (SPN)	Kerberos による Active Directory サービスの特定を支援する SPN。STS/example.com のように、名前にドメインを含めます。 使用するユーザーを追加するには、setspn -S を実行する必要があります。setspn の情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。 SPN はドメイン全体で一意的である必要があります。setspn -S を実行すると、重複が作成されていないことをチェックできます。

フィールド	説明
ユーザー プリンシパル名 (UPN)	このアイデンティティ ソースで認証できるユーザーの名前。 jchin@mydomain.com のように、メール アドレス形式を使用します。ユーザー プリンシパル名は、Active Directory サービス インターフェイス エディタ (ADSI エディタ) で検証できます。
パスワード	このアイデンティティ ソース ([ユーザー プリンシパル名] で指定したユーザー) での認証に使用されるユーザーのパスワード。 jdoe@example.com のように、ドメイン名を含めます。

アイデンティティ ソース タブに、参加した Active Directory ドメインが表示されます。

次のステップ

参加した Active Directory ドメインのユーザーおよびグループが vCenter Server コンポーネントにアクセスできるように権限を設定することができます。権限の管理の詳細については、『vSphere セキュリティ』ドキュメントを参照してください。

Active Directory ドメインからの離脱

vCenter Server Appliance を結合した後は、vSphere Web Client にログインし、Active Directory ドメインから離脱するように vCenter Server Appliance を設定することができます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、**管理** タブをクリックします。
- 5 [詳細] で、**Active Directory** を選択して **離脱** をクリックします。
- 6 Active Directory のユーザー名とパスワードを入力します。
- 7 **OK** をクリックし、Active Directory ドメインを離脱します。
- 8 **アクション** メニューをクリックし、**再起動** を選択します。これにより、アプライアンスが再起動して、変更が適用されます。

SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加

vSphere Web Client を使用して vCenter Server Appliance の Bash シェルへのアクセスを有効にする場合、ログインで使用するユーザーは、SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループのメンバーである必要があります。デフォルトでこのグループは空であり、グループに手動でユーザーを追加する必要があります。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。
- 2 **管理** をクリックします。
- 3 [シングル サインオン] で、**ユーザーおよびグループ** をクリックします。
- 4 **グループ** タブで、**SystemConfiguration.BashShellAdministrators** グループを選択します。
- 5 [グループ メンバー] ペインで、**メンバーの追加** アイコンをクリックします。
- 6 リストでユーザーをダブルクリックするか、**ユーザー** テキスト ボックスに名前を入力します。
- 7 **[OK]** をクリックします。

vCenter Server Appliance へのアクセス設定の編集

vSphere Web Client を使用して、アプライアンスへのローカル アクセスおよびリモート アクセスを有効化できます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

vCenter Server Appliance Bash シェルへのアクセスを有効にするには、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループのメンバーであることを確認します。SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加の詳細については、[SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加](#)を参照してください。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。

- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、**管理** タブをクリックします。
- 5 [共通] で、**アクセス** を選択して、**編集** をクリックします。
- 6 vCenter Server Appliance へのアクセス方法を選択します。

オプション	説明
ローカル ログインの有効化	vCenter Server Appliance コンソールへのローカル ログインを有効にします。
SSH ログインの有効化	vCenter Server Appliance への SSH アクセスを有効にします。
Bash シェル アクセスの有効化	<p>入力する時間(分)中、vCenter Server Appliance への Bash シェル アクセスを有効化します。</p> <p>このオプションは、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループのメンバーである場合に限り使用できます。</p>

- 7 **OK** をクリックし、設定を保存します。

Edit the DNS and IP Address Settings of the vCenter Server Appliance

After you deploy the vCenter Server Appliance, you can edit the DNS settings and specify which DNS server to use. You can also edit the IP address settings of the vCenter Server Appliance, specify whether to use IPv4 and IPv6 or only IPv6, and how the appliance obtains the IP address.

You can edit these settings by using the vSphere Web Client.

Prerequisites

- アプライアンスの IP アドレスを変更する場合は、アプライアンスのシステム名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。アプライアンスのデプロイ中にシステム名として IP アドレスを設定すると、システム名がプライマリ ネットワークの識別子として使用されるので、デプロイ後に IP アドレスを変更できなくなります。
- vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

Procedure

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックします。

- 4 [ノード] で、ノードを選択し、**管理** タブをクリックします。
- 5 Under Common , select **Networking**, and click **Edit**.
- 6 Expand **DNS** and edit the settings.

Option	Description
Obtain DNS server address automatically	Obtains the DNS settings automatically from the network.
Enter settings manually	<p>Lets you specify the DNS address settings manually. If you select this option, you must provide:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Hostname Hostname for the vCenter Server Appliance machine. ■ Preferred DNS server Preferred DNS server IP address. ■ Alternate DNS server Alternate DNS server IP address. ■ Search domains Search domains if you want to restrict the domain when looking up an address. Domains that you enter are searched in the order entered. The search stops when a valid name is found.

- 7 ネットワーク インターフェイス名を展開して、IP アドレス設定を編集します。
- 8 IPv4 アドレス設定を編集します。

オプション	説明
IPv4 設定がありません	IPv4 アドレスを無効にします。アプライアンスでは、IPv6 アドレスのみが使用されます。
IPv4 設定を自動的に取得します	ネットワークからアプライアンスの IPv4 アドレスを自動的に取得します。
次の IPv4 設定を使用	手動で設定した IPv4 アドレスを使用します。IP アドレス、サブネット プリフィックス長、およびデフォルト ゲートウェイを入力する必要があります。

- 9 IPv6 設定を編集します。

オプション	説明
DHCP を使用して IPv6 設定を自動的に取得	DHCP を使用することで、ネットワークからアプライアンスに IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
ルーターのアドバタイズを使用して IPv6 設定を自動的に取得	ルーターのアドバタイズを使用することにより、ネットワークから自動的にアプライアンスに IPv6 アドレスを割り当てます。
固定 IPv6 アドレス	<p>手動で設定した固定 IPv6 アドレスを使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 追加アイコンをクリックします。 2 IPv6 アドレスとサブネット プリフィックス長を入力します。 3 OK をクリックします。 4 (オプション)デフォルト ゲートウェイを編集します。

アプライアンスは、DHCP およびルーターのアドバタイズの両方を使用して IPv6 設定を自動的に取得するように設定できます。同時に、固定 IPv6 アドレスを割り当てることも可能です。

10 (Optional) Delete a dynamic IPv6 address.

- a Click **Remove addresses**.
- b Select the IP address to delete and click the **Delete** icon (✖).
- c Click **OK**.

11 Click **OK** to save your edits.**What to do next**

You need to restart the dnsmasq service to flush the old cache data.

- 1 Connect to the vCenter Server Appliance using SSH.
- 2 Change the BASH shell by entering the shell command.
- 3 Run `service dnsmasq restart` to restart the dnsmasq service.

vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集

vCenter Server Appliance のデプロイ後に、vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集や、ファイアウォール ルールの作成を行うことができます。vSphere Web Client を使用して、ファイアウォール設定を編集できます。

ファイアウォール ルールを使用すると、vCenter Server Appliance と特定のサーバー、ホスト、または仮想マシンの間のトラフィックを許可またはブロックすることができます。特定のポートをブロックすることはできず、すべてのトラフィックがブロックされます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに `administrator@your_domain_name` としてログインします。
アドレスのタイプは、`http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client` です。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、**管理** タブをクリックします。
- 5 [詳細] で、**ファイアウォール** を選択して、**編集** をクリックします。

6 ファイアウォール設定を編集します。

オプション	操作
ファイアウォール ルールの追加	a 追加 アイコン(+)をクリックして、新しいファイアウォール ルールを作成します。 b 仮想マシンのネットワーク インターフェイスを選択します。 c このルールを適用するネットワークの IP アドレスを入力します。 この IP アドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスにできます。 d サブネット プレフィックスの長さを入力します。 e アクション ドロップダウン メニューから、vCenter Server Appliance と指定したネットワークの間の接続をブロックするか許可するかを選択します。 f OK をクリックします。
ファイアウォール ルールの編集	a 編集 アイコン(✎)をクリックして、ファイアウォール ルールを編集します。 b ルールの設定を編集します。 c OK をクリックします。
ルールの優先順位付け	a 下矢印または上矢印をクリックして、リスト内のルールを下または上に移動します。
ファイアウォール ルールの削除	a リストからルールを選択して、 削除 アイコン(✖)をクリックします。 b OK をクリックします。

7 OK をクリックして、編集内容を保存します。

サービスの起動設定の編集

Message Bus Configuration、ESXi Dump Collector、および Auto Deploy サービスは、vCenter Server Appliance の任意のサービスで、デフォルトでは実行されません。vCenter Server Appliance のこれらのサービスの起動設定は編集することができます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックし、リストからノードを選択します。
- 4 **関連オブジェクト** タブをクリックします。
選択したノードで実行されているサービスのリストが表示されます。
- 5 **Auto Deploy**、**ESXi Dump Collector**、または **Message Bus Configuration** などのサービスを右クリックし、**起動タイプの編集** を選択します。

6 サービスの起動方法を選択します。

オプション	説明
自動	オペレーティング システムの起動時にサービスが自動的に起動します。
手動	オペレーティング システムの起動後にサービスを手動で起動する必要があります。
無効	サービスは無効になっています。

7 OK をクリックします。

vCenter Server Appliance でのサービスの開始、停止、または再起動

vSphere Web Client で、vCenter Server Appliance で実行されているサービスを開始、停止、または再起動できます。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに、`administrator@your_domain_name` としてログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックし、リストからノードを選択します。
- 4 **関連オブジェクト** タブをクリックします。
選択したノードで実行されているサービスのリストが表示されます。
- 5 **アクション** メニューから、操作を選択します。
サービスの開始、停止、および再起動を行うことができます。

サービスおよびノードの健全性ステータスの表示

vSphere Web Client で、vCenter Server サービスおよびノードの健全性ステータスを表示できます。

vCenter Server サービスを実行している vCenter Server インスタンスおよびマシンは、ノードとみなされます。グラフィカルなバッジは、サービスおよびノードの健全性ステータスを表します。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server インスタンスに、`administrator@your_domain_name` としてログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
サービスおよびノードの健全性ステータス バッジを表示できます。

表 3-2. 健全性の状態

バッジアイコン	説明
	良好。オブジェクトの健全性は正常です。
	警告。オブジェクトにいくつかの問題が発生しています。
	最重要。オブジェクトが正常に動作していないか、まもなく動作を停止します。
	不明。このオブジェクトで利用可能なデータはありません。

- 3 (オプション) [サービスの健全性] および [ノードの健全性] ペインで健全性バッジの横にあるハイパーリンクをクリックして、この健全性の状態のすべてのサービスおよびノードを表示します。
たとえば、[サービスの健全性] ペインで「警告」の健全性ステータスのハイパーリンクをクリックし、ポップアップされるダイアログ ボックスで詳細情報を表示するサービスを選択し、サービスの健全性の問題を解決します。

サービスの設定の編集

vSphere Web Client には、vCenter Server で実行されている管理可能なすべてのサービスが一覧表示されます。一部のサービスは、設定を編集できます。

vSphere Web Client には、vCenter Server および vCenter Server Appliance で実行されているすべての管理可能なサービスに関する情報が表示されます。各 vCenter Server インスタンスで、デフォルト サービスのリストを使用できます。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの `SystemConfiguration.Administrators` グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server インスタンスに、`administrator@your_domain_name` としてログインします。
- 2 vSphere Web Client ホーム ページの [管理] で、**システム構成** をクリックします。

3 [システム構成] で、**ノード** をクリックし、リストからノードを選択します。

4 **関連オブジェクト** タブをクリックします。

選択したノードで実行されているサービスのリストが表示されます。編集可能な設定は、管理可能なすべてのサービスで使用できるわけではありません。

5 リストにあるサービスを右クリックし、**設定** をクリックします。

編集可能な設定は、管理可能なすべてのサービスで使用できるわけではありません。

6 **管理** タブで、**編集** ボタンをクリックします。

7 サービス構成プロパティを編集します。

8 **OK** をクリックし、設定を保存します。

9 (オプション) **アクション** メニューから **再起動** を選択します。

サービスを再起動する必要があるのは、構成の変更を適用するためにサービスの再起動が必要になる場合のみです。

サポート バンドルのエクスポート

Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance をデプロイした場合、vCenter Server Appliance に含まれる特定の製品のログ ファイルまたは Platform Services Controller の特定のサービスのログ ファイルを含むサポート バンドルをエクスポートできます。外部 Platform Services Controller を備えた vCenter Server Appliance をデプロイした場合は、vSphere Web Client で選択したノードに応じて、特定のサービスまたは特定の製品のサポート バンドルをエクスポートできます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。

アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。

2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。

3 [システム構成] で、**ノード** をクリックします。

4 リストからノードを選択します。

5 **アクション** メニューをクリックして、**サポート バンドルのエクスポート** を選択します。

- 6 **サポート バンドルのエクスポート** ウィンドウで、ツリーを展開して、アプライアンスで実行されているサービスを表示し、ログ ファイルをエクスポートしないサービスの選択を解除します。

デフォルトでは、すべてのサービスが選択されています。サポート バンドルをエクスポートして、VMware サポートに送信する場合は、すべてのチェックボックスを選択したままにしておきます。サービスは 2 つのカテゴリに分類されます。1 つは、アプライアンス内の特定の製品のサービスが含まれるクラウド インフラストラクチャ カテゴリで、もう 1 つは、アプライアンスおよび vCenter Server 製品に固有のサービスが含まれる仮想アプライアンス カテゴリです。

- 7 **サポート バンドルのエクスポート** をクリックして、ローカル マシンにバンドルを保存します。

サポート バンドルがマシンに保存され、参照できるようになりました。

vCenter Server Appliance のログ ファイルの別のマシンへのリダイレクト

vCenter Server Appliance のストレージ領域を確保するには、たとえば vCenter Server Appliance のログ ファイルを別のマシンにリダイレクトすることができます。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに、`administrator@your_domain_name` としてログインします。
- 2 vSphere Web Client のホーム ページで、**システム構成** をクリックします。
- 3 [システム構成] で、**ノード** をクリックし、リストからノードを選択します。
- 4 **関連オブジェクト** タブをクリックします。
選択したノードで実行されているサービスのリストが表示されます。
- 5 **VMware Syslog サービス** を右クリックし、**設定** を選択します。
- 6 **Edit** をクリックします。
- 7 [共通ログ レベル] ドロップダウン メニューから、リダイレクトするログ ファイルを選択します。

オプション	説明
*	すべてのログ ファイルがリモート マシンにリダイレクトされます。
情報	情報提供目的のログ ファイルのみがリモート マシンにリダイレクトされます。
注意	通知のみがリモート マシンにリダイレクトされます。 通知は、正常ではあっても注意を要する状態を示します。
警告	警告のみがリモート マシンにリダイレクトされます。
エラー	エラー メッセージのみがリモート マシンにリダイレクトされます。

オプション	説明
crit	重大ログ ファイルのみがリモート マシンにリダイレクトされます。
alert	アラートのみがリモート マシンにリダイレクトされます。 アラートは、直ちに対処する必要があることを示します。
emerg	緊急ログ ファイルのみがリモート マシンにリダイレクトされます。 緊急は、システムが応答しなくなり、使用することができないことを示します。

- 8 リモート Syslog ホスト テキスト ボックスに、ログ ファイルのエクスポート先のマシンの FQDN または IP アドレスを入力します。
- 9 リモート Syslog ポート テキスト ボックスに、ログ ファイルのエクスポート先のマシンとの通信に使用するポートの番号を入力します。
- 10 リモート Syslog プロトコル ドロップダウンから、使用するプロトコルを選択します。

オプション	説明
TCP	Transmission Control Protocol
UDP	User Datagram Protocol
TLS	トランスポート レイヤー セキュリティ

- 11 **OK** をクリックします。
- 12 [アクション] メニューで **再起動** をクリックし、構成の変更が適用されるようにします。

アプライアンス シェルを使用して vCenter Server Appliance を設定 する

4

アプライアンスの監視、トラブルシューティング、構成を実行するためのすべての vCenter Server Appliance API コマンドに、アプライアンス シェルを使用してアクセスできます。

すべてのコマンドは、pi キーワードを指定して、または指定せずに、アプライアンス シェルで実行できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [アプライアンス シェルへのアクセス](#)
- [アプライアンス シェルからの Bash シェル アクセスの有効化](#)
- [コマンドを編集するためのキーボード ショートカット](#)
- [アプライアンスのプラグインおよび API コマンドに関するヘルプの表示](#)
- [vCenter Server Appliance シェルのプラグイン](#)
- [vCenter Server Appliance シェルの API コマンド](#)
- [showlog プラグインを使用したログ ファイルの参照](#)
- [vCenter Server Appliance の SNMP の構成](#)
- [vCenter Server Appliance の時刻同期設定の構成](#)
- [vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの管理](#)
- [vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視](#)
- [サービスのリソース使用量を監視する vimtop プラグインの使用](#)

アプライアンス シェルへのアクセス

アプライアンス シェルに含まれるプラグインにアクセスし、すべての API コマンドの表示と使用を可能にするには、最初にアプライアンス シェルにアクセスします。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスします。
 - アプライアンス コンソールに直接アクセスできる場合は、Alt+F1 を押します。

- リモート接続する場合は、SSH などのリモート コンソール接続を使用して、アプライアンスへのセッションを開始します。

2 アプライアンスで認識されるユーザー名とパスワードを入力します。

アプライアンス シェルにログインし、ようこそメッセージが表示されます。

アプライアンス シェルからの Bash シェル アクセスの有効化

スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてアプライアンス シェルにログインする場合は、アプライアンス シェルを使用することにより、アプライアンスの Bash シェルへのアクセスを有効化できます。

手順

1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

2 コマンドを実行して、Bash シェルへのアクセスを有効にします。

```
shell.set --enabled true
```

3 Bash シェルにアクセスするには、shell または pi shell を実行します。

コマンドを編集するためのキーボード ショートカット

さまざまなキーボード ショートカットを使用して、アプライアンスの Bash シェルでコマンドを入力および編集できます。

表 4-1. キーボード ショートカットと機能

キーボードのショートカット	詳細
Tab	現在入力中のコマンドを補完します。コマンド名の一部を入力して Tab キーを押すと、システムによってコマンド名が補完されます。 入力した一連の文字に一致するコマンドを表示するには、1 文字入力するたびに Tab キーを押します。
Enter (コマンドラインで)	入力したコマンドを実行します。
Enter (--More-- プロンプトで)	出力の次ページを表示します。
Delete または Backspace	カーソルの左側の文字を削除します。
左矢印または Ctrl+B	カーソルを 1 文字だけ左に移動します。 複数行にまたがるコマンドを入力する場合は、左矢印または Ctrl-B キーを押すことで、コマンドの先頭に戻ることができます。
右矢印または Ctrl+F	カーソルを 1 文字だけ右に移動します。
Esc、B	カーソルを 1 語分だけ前に戻します。
Esc、F	カーソルを 1 語分だけ先に進めます。
Ctrl+A	カーソルをコマンドラインの先頭に移動します。
Ctrl+E	カーソルをコマンドラインの末尾に移動します。

キーボードのショートカット	詳細
Ctrl+D	カーソル位置の文字を削除します。
Ctrl+W	カーソルの次の語を削除します。
Ctrl+K	行のカーソル位置以降を削除します。Ctrl+K を押すと、現在のカーソル位置からコマンドラインの末尾までのすべての文字が削除されます。
Ctrl+U または Ctrl+X	行のカーソル位置より前方を削除します。Ctrl+U を押すと、コマンドラインの先頭から現在のカーソル位置までのすべての文字が削除されます。
Ctrl+T	カーソルの左側の文字とカーソル位置にある文字を交換します。
Ctrl+R または Ctrl+L	システム プロンプトとコマンドラインを表示します。
Ctrl+V または Esc、Q	次のキーストロークを、編集キーではなくコマンド入力として処理するようシステムに指示するコードを挿入します。
上矢印または Ctrl+P	履歴バッファ内のコマンドを呼び出します。最後に実行したコマンドが最初に呼び出されます。
下矢印または Ctrl+N	上矢印または Ctrl+P を使用してコマンドを呼び出した後、履歴バッファ内の最後に実行したコマンドに戻ります。
Ctrl+Y	削除バッファ内の最後に格納されたエントリを呼び出します。削除バッファには、切り取りまたは削除操作の対象となった最後の 10 項目が格納されています。
Esc、Y	削除バッファ内の次のエントリを呼び出します。削除バッファには、切り取りまたは削除操作の対象となった最後の 10 項目が格納されています。最初に Ctrl+Y を押して最後のエントリを呼び出してから、Esc、Y を最大 9 回連続押下することで、バッファ内の残りのエントリが呼び出します。
Esc、C	カーソル位置にある文字を大文字に変換します。
Esc、U	カーソル位置にある単語を構成するすべての文字を（つまり、次のスペースまで）大文字に変換します。
Esc、L	単語の中の大文字を、カーソル位置からその単語の末尾まで小文字に変換します。

アプライアンスのプラグインおよび API コマンドに関するヘルプの表示

vCenter Server Appliance プラグインと API コマンドには、アプライアンス シェルからアクセスできます。これらのプラグインとコマンドを使用して、アプライアンスの監視、トラブルシューティング、構成を実行できます。

API コマンド、プラグイン名、API パラメータを入力する場合、Tab キーを使用して自動補完できます。プラグインパラメータでは、オートコンプリートはサポートされていません。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、ログインします。
- 2 プラグインのヘルプを表示するには、`help pi list` または `? pi list` コマンドを実行します。
アプライアンス内のすべてのプラグインが記載されたリストが表示されます。
- 3 API コマンドのヘルプを表示するには、`help api list` または `? api list` コマンドを実行します。
アプライアンス内のすべての API コマンドが記載されたリストが表示されます。

- 4 特定の API コマンドに関するヘルプを取得するには、`help api api_name` または `? api api_name` コマンドを実行します。

たとえば、`com.vmware.appliance.version1.timesync.set` コマンドのヘルプを取得するには、`help api timesync.set` または `? api timesync.set` を実行します。

vCenter Server Appliance シェルのプラグイン

vCenter Server Appliance のプラグインを使用して、さまざまな管理ツールにアクセスできます。プラグインは、CLI 自体にあります。プラグインは、VMware サービスに依存しない、Linux または VMware のスタンドアロンユーティリティです。

表 4-2. vCenter Server Appliance で使用できるプラグイン

プラグイン	説明
<code>com.vmware.clear</code>	ターミナル画面の消去に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.cmsso-util</code>	PNID やマシン証明書に対する変更を指揮したり、Component Manager や vCenter Single Sign-On からノードの登録を解除したり、Platform Services Controller が組み込まれている vCenter Server を再構成したり、外部 Platform Services Controller に vCenter Server を再ポイントしたりするためのプラグイン。
<code>com.vmware.dcli</code>	vAPI ベースの CLI クライアント。
<code>com.vmware.nslookup</code>	ドメイン名システム (DNS) に照会してドメイン名または IP アドレスマッピングを取得するため、またはその他の特定の DNS レコードを照会するために使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.ntpq</code>	標準の NTP クエリ プログラム。
<code>com.vmware.pgrep</code>	すべての名前付きプロセスの検索に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.pgtop</code>	PostgreSQL データベースの監視に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.ping</code>	リモート ホストへの ping の実行に使用できるプラグイン。bin/ping と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.ping6</code>	リモート ホストへの ping の実行に使用できるプラグイン。bin/ping6 と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.portaccess</code>	ホストのポート アクセスのトラブルシューティングに使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.ps</code>	実行プロセスの統計の表示に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.psc-restore</code>	外部 Platform Services Controller インスタンスのリストアに使用するプラグイン。
<code>com.vmware.rvc</code>	Ruby vSphere Console。
<code>com.vmware.service-control</code>	VMware サービスの管理に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.shell</code>	アプライアンス Bash シェルへのアクセスを許可するプラグイン。
<code>com.vmware.showlog</code>	ログ ファイルの参照に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.shutdown</code>	アプライアンスの再起動またはパワーオフに使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.software-packages</code>	アプライアンスのソフトウェア パッケージの更新に使用できるプラグイン。

プラグイン	説明
com.vmware.support-bundle	ローカル ファイル システムにバンドルを作成し、そのバンドルをリモート Linux システムにエクスポートするために使用できるプラグイン。このプラグインを stream コマンドとともに使用する場合は、サポートバンドルはローカル ファイル システムに作成されず、リモート Linux システムに直接エクスポートされます。
com.vmware.top	プロセス情報を表示するプラグイン。/usr/bin/top/ と同じ引数を使用できます。
com.vmware.tracepath	ネットワーク ホストへのパスをトレースするプラグイン。/sbin/tracepath と同じ引数を使用できます。
com.vmware.tracepath6	ネットワーク ホストへのパスをトレースするプラグイン。/sbin/tracepath6 と同じ引数を使用できます。
com.vmware.vimtop	vSphere サービスとそのリソースの使用状況のリストを表示するために使用できるプラグイン。

vCenter Server Appliance シェルの API コマンド

vCenter Server Appliance の API コマンドを使用すると、vCenter Server Appliance のさまざまな管理タスクを実行できます。これらの API コマンドは、vCenter Server Appliance のアプライアンス管理サービスによって提供されます。時刻同期設定の編集、プロセスとサービスの監視、SNMP 設定のセットアップなどを実行できます。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド

API コマンド	説明
com.vmware.appliance.version1.access.consolecli.get	コンソール ベースの制御された CLI (TTY1) の状態に関する情報を取得します。
com.vmware.appliance.version1.access.consolecli.set	コンソール ベースの制御された CLI (TTY1) の有効な状態を設定します。
com.vmware.appliance.version1.access.dcu.get	ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイス (DCUI TTY2) の状態に関する情報を取得します。
com.vmware.appliance.version1.access.dcu.set	ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイス (DCUI TTY2) の有効な状態を設定します。
com.vmware.appliance.version1.access.shell.get	Bash シェルの状態、つまり、制御された CLI 内からの Bash シェルへのアクセスに関する情報を取得します。
com.vmware.appliance.version1.access.shell.set	Bash シェルの有効な状態、つまり、制御された CLI 内からの Bash シェルへのアクセスに関する情報を設定します。
com.vmware.appliance.version1.access.ssh.get	SSH ベースの制御された CLI の有効な状態を取得します。
com.vmware.appliance.version1.access.ssh.set	SSH ベースの制御された CLI の有効な状態を設定します。

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.add</code>	新しいローカル ユーザー アカウントを作成します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.delete</code>	ローカル ユーザー アカウントを削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.get</code>	ローカル ユーザー アカウント情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.list</code>	ローカル ユーザー アカウントを一覧表示します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.password.update</code>	ログインしているユーザー、または username パラメータで指定されたユーザーのパスワードを更新します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.set</code>	ローカル ユーザー アカウントのプロパティ（ロール、フル ネーム、有効化されたステータス、パスワードなど）を更新します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.disable</code>	有効化されている SNMP エージェントを停止します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.enable</code>	無効化されている SNMP エージェントを開始します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.get</code>	SNMP エージェントの構成を返します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.hash</code>	セキュアな SNMPv3 通信用のローカライズされたキーを生成します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.limits</code>	SNMP の制限情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.reset</code>	工場出荷時のデフォルト設定をリストアします。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.set</code>	SNMP 構成を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.test</code>	すべての設定済みトラップおよびインフォームのターゲットに warmStart 通知を送信します (RFC 3418 を参照)。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.domains.add</code>	DNS 検索ドメインにドメインを追加します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.domains.list</code>	DNS 検索ドメインの一覧を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.domains.set</code>	DNS 検索ドメインを設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.hostname.get</code>	完全修飾ドメイン名を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.hostname.set</code>	完全修飾ドメイン名を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.servers.add</code>	DNS サーバを追加します。DHCP を使用している場合、この方法は失敗します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.servers.get</code>	DNS サーバ構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.servers.set</code>	DNS サーバ構成を設定します。DHCP を使用して DNS サーバとホスト名を取得するようホストが構成されている場合は、DHCP が強制的に更新されます。

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.firewall.addr.inbound.add</code>	受信 IP アドレスからのアクセスを許可または拒否するファイアウォール ルールを追加します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.firewall.addr.inbound.delete</code>	指定された位置の特定のルールまたはすべてのルールを削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.firewall.addr.inbound.list</code>	ファイアウォール ルールによって許可または拒否される受信 IP アドレスの順序付きリストを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.interfaces.get</code>	特定のネットワーク インターフェイスに関する情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.interfaces.list</code>	使用可能なネットワーク インターフェイス (未構成のインターフェイスも含む) のリストを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.get</code>	インターフェイスの IPv4 ネットワーク構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.list</code>	すべての構成済みインターフェイスの IPv4 ネットワーク構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.renew</code>	インターフェイスの IPv4 ネットワーク構成を更新します。DHCP を使用して IP アドレスを割り当てるようにインターフェイスが構成されている場合は、インターフェイスのリースが更新されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.set</code>	インターフェイスの IPv4 ネットワーク構成を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv6.get</code>	インターフェイスの IPv6 ネットワーク構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv6.list</code>	すべての構成済みインターフェイスの IPv6 ネットワーク構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv6.set</code>	インターフェイスの IPv6 ネットワーク構成を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.routes.add</code>	固定ルーティング ルールを追加します。 0.0.0.0/0 (IPv4 の場合) または ::/0 (IPv6 の場合) という宛先またはプリフィックスは、デフォルト ゲートウェイを意味します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.routes.delete</code>	固定ルーティング ルールを削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.routes.list</code>	ルーティング テーブルを取得します。 0.0.0.0/0 (IPv4 の場合) または ::/0 (IPv6 の場合) という宛先またはプリフィックスは、デフォルト ゲートウェイを意味します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.proxy.delete</code>	入力値として指定したプロトコルのプロキシ構成を削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.proxy.get</code>	すべてのプロトコルのプロキシ構成情報を取得します。

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.proxy.set</code>	入力値として指定したプロトコルのプロキシ構成を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.get</code>	NTP 構成設定を取得します。 <code>timesync.get</code> コマンドを実行すれば、(NTP または VMware Tools を使用して)現在の時刻同期方法を取得できます。 <code>ntp.get</code> は、時刻同期方法が NTP に設定されていない場合でも、常に NTP サーバ情報を返します。NTP を使用して時刻同期方法を設定しないと、NTP ステータスはダウンと表示されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.server.add</code>	NTP サーバを追加します。このコマンドにより、NTP サーバが構成に追加されます。時刻同期が NTP ベースの場合は、NTP デーモンが再起動され新規の NTP サーバが再ロードされます。時刻同期が NTP ベース以外の場合、このコマンドによって実行されるのは NTP 構成へのサーバの追加のみです。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.server.delete</code>	NTP サーバを削除します。このコマンドは、構成から NTP サーバを削除します。時刻同期モードが NTP ベースの場合は、NTP デーモンが再起動され、新規の NTP 構成が再ロードされます。時刻同期モードが NTP ベース以外の場合、このコマンドによって実行されるのは NTP 構成からのサーバの削除のみです。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.server.set</code>	NTP サーバを設定します。このコマンドにより、古い NTP サーバが構成から削除され、入力された NTP サーバが構成内で設定されます。NTP を使用して時刻同期を設定すると、NTP デーモンが再起動され、新規の NTP 構成が再ロードされます。NTP を使用して時刻同期を設定しない場合、このコマンドによって実行されるのは、NTP 構成のサーバを入力として指定した NTP サーバに置換することのみです。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.cpu.stats.get</code>	CPU 統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.load.health.get</code>	ロードの健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.load.stats.get</code>	(1 分、5 分、15 分間隔の)平均ロードを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.mem.health.get</code>	メモリの健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.mem.stats.get</code>	メモリ統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.net.stats.get</code>	ネットワーク統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.net.stats.list</code>	稼働中のすべてのインターフェイスのネットワーク統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.processes.stats.list</code>	すべてのプロセスの統計情報を取得します。

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.softwarepackages.health.get</code>	更新コンポーネントの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.storage.health.get</code>	ストレージの健全性統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.storage.stats.list</code>	各論理ディスクのストレージ統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.swap.health.get</code>	スワップの健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.swap.stats.get</code>	スワップの統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.system.health.get</code>	システムの全般的な健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.system.stats.get</code>	システムのステータスを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.system.time.get</code>	システム時刻を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.list</code>	すべての既知のサービスの一覧を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.restart</code>	サービスを再起動します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.status.get</code>	サービスのステータスを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.stop</code>	サービスを停止します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.update.get</code>	URL ベースのパッチ適用構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.update.set</code>	URL ベースのパッチ適用構成を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.version.get</code>	アプライアンスのバージョンを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.timesync.get</code>	時刻同期構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.timesync.set</code>	時刻同期構成を設定します。

showlog プラグインを使用したログ ファイルの参照

vCenter Server Appliance ログ ファイルを参照して、エラーを確認できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、ログインします。
- 2 `showlog` コマンドを入力してスペースを 1 つ追加し、Tab キーを押して、`/var/log` フォルダのすべての内容を表示します。
- 3 vCenter Server Appliance の `firstboot` ログ ファイルを表示するコマンドを実行します。

```
showlog /var/log/firstboot/cloudvm.log
```

vCenter Server Appliance の SNMP の構成

vCenter Server Appliance には SNMP エージェントが含まれており、トラップ通知の送信と、GET、GETBULK、および GETNEXT 要求の受信を行うことができます。

vCenter Server Appliance SNMP エージェントの有効化と構成には、アプライアンス シェルの API コマンドを使用できます。SNMP v1/v2c または SNMP v3 のどれを使用するかによって、エージェントの構成方法が異なります。

vSphere 6.0 では、SNMP v3 インフォームはサポートされていません。vCenter Server Appliance は、v1 および v2c トラップのほか、すべてのセキュリティレベルを備えた v3 トラップなどの通知のみをサポートします。

ポーリングを行う SNMP エージェントの構成

ポーリングを行うように vCenter Server Appliance SNMP エージェントを構成すると、SNMP 管理クライアントシステムからの要求 (GET、GETNEXT、GETBULK など) を待機し、応答できるようになります。

デフォルトで、組み込み SNMP エージェントは、UDP ポート 161 で管理システムからのポーリング要求を待機します。snmp.set --port コマンドを使用して、代替ポートを構成できます。SNMP エージェント用のポートと他のサービスのポート間で競合が発生しないように、/etc/services に定義されていない UDP ポートを使用してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 snmp.set --port コマンドを実行してポートを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --port port
```

ここで、*port* は、SNMP エージェントがポーリング要求を待機するために使用するポートです。

重要: ここに、他のサービスによってすでに使用されているポートを指定してはなりません。動的範囲 (49152 番以上のポート) の IP アドレスを使用してください。

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、snmp.enable コマンドを実行して有効にします。

SNMP v1 および v2c 用の vCenter Server Appliance の構成

SNMP v1 および v2c 用に vCenter Server Appliance SNMP エージェントを構成すると、通知の送信および GET 要求の受信がエージェントでサポートされます。

SNMP v1 および v2c では、コミュニティ ストリングは 1 つ以上の管理対象オブジェクトを含むネームスペースです。ネームスペースは認証のフォームとして機能することはできますが、通信は保護されません。通信を保護するには、SNMP v3 を使用します。

手順

1 SNMP コミュニティの構成

SNMP v1 および v2c メッセージを送受信するために vCenter Server Appliance SNMP エージェントを有効にするには、エージェント用に少なくとも 1 つのコミュニティを構成する必要があります。

2 v1 または v2c 通知を送信する SNMP エージェントの構成

vCenter Server Appliance SNMP エージェントを使用して、仮想マシン通知および環境通知を管理システムに送信できます。

SNMP コミュニティの構成

SNMP v1 および v2c メッセージを送受信するために vCenter Server Appliance SNMP エージェントを有効にするには、エージェント用に少なくとも 1 つのコミュニティを構成する必要があります。

SNMP コミュニティは、デバイスと管理システムのグループを定義します。同じコミュニティのメンバーであるデバイスおよび管理システムだけが、SNMP メッセージを交換できます。デバイスまたは管理システムは、複数のコミュニティのメンバーになることができます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `snmp.set --communities` コマンドを実行して、SNMP コミュニティを構成します。

たとえば、パブリック、東、および西のネットワーク オペレーション センターのコミュニティを構成するには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --communities public,eastnoc,westnoc
```

このコマンドでコミュニティを指定するたびに、指定した設定によって、以前の構成が上書きされます。

複数のコミュニティを指定するには、コミュニティ名をコンマで区切ります。

v1 または v2c 通知を送信する SNMP エージェントの構成

vCenter Server Appliance SNMP エージェントを使用して、仮想マシン通知および環境通知を管理システムに送信できます。

SNMP エージェントで SNMP v1 および v2c 通知を送信するには、ターゲットつまり受信者のユニキャスト アドレス、コミュニティ、および必要に応じてポートを構成する必要があります。ポートを指定しない場合、SNMP エージェントはデフォルトで、ターゲット管理システムの UDP ポート 162 に通知を送信します。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `snmp.set --targets` コマンドを実行します。

```
snmp.set --targets target_address@port/community
```

ここで、*target_address*、*port*、*community* には、それぞれ、ターゲット システムのアドレス、通知の送信先のポート番号、コミュニティ名を指定します。ポートの値は任意です。ポートを指定しない場合、デフォルトのポート 161 が使用されます。

このコマンドでターゲットを指定するたびに、指定した設定によって、以前指定された設定が上書きされます。複数のターゲットを指定するには、コンマで区切ります。

たとえば、ターゲットの 192.0.2.1@678/targetcommunity および 2001:db8::1/anothercom を構成するには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --targets 192.0.2.1@678/targetcommunity,2001:db8::1/anothercom
```

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。
- 4 (オプション) `snmp.test` コマンドを実行し、テストトラップを送信してエージェントが正しく構成されていることを確認します。

エージェントは、構成されたターゲットに warmStart トラップを送信します。

SNMP v3 用の vCenter Server Appliance の構成

SNMP v3 用に SNMP エージェントを構成すると、トラップの送信がエージェントでサポートされます。SNMP v3 には、暗号化認証や暗号化など、v1 または v2c よりも強化されたセキュリティを備えられています。

vSphere 6.0 では、SNMP v3 インフォームはサポートされていません。vCenter Server Appliance は、すべてのセキュリティレベルでの v1/v2c トラップ、v3 トラップなどの通知のみをサポートします。

手順

- 1 **SNMP エンジン ID の構成**

すべての SNMP v3 エージェントには、エージェントの一意の識別子として使用されるエンジン ID があります。エンジン ID は、ハッシュ関数を使用して、SNMP v3 メッセージの認証と暗号化のためのローカライズされたキーを生成するときに使用されます。

- 2 **SNMP 認証およびプライバシー プロトコルの構成**

SNMP v3 は、オプションとして認証およびプライバシー プロトコルをサポートしています。

- 3 **SNMP ユーザーの設定**

SNMP v3 情報にアクセスできるユーザーを、5 人まで設定できます。ユーザー名は、32 文字以下にする必要があります。

4 SNMP v3 ターゲットの構成

SNMP エージェントによる SNMP v3 トラップの送信が許可されるように SNMP v3 ターゲットを構成します。

SNMP エンジン ID の構成

すべての SNMP v3 エージェントには、エージェントの一意の識別子として使用されるエンジン ID があります。エンジン ID は、ハッシュ関数を使用して、SNMP v3 メッセージの認証と暗号化のためのローカライズされたキーを生成するときに使用されます。

SNMP エージェントを有効化する前にエンジン ID が指定されていない場合は、スタンドアロンの SNMP エージェントを有効化すると、エンジン ID が生成されます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `snmp.set --engineid` コマンドを実行してターゲットを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --engineid 80001adc802417e202b8613f5400000000
```

ここで、80001adc802417e202b8613f5400000000 は ID (5 ~ 32 文字の 16 進文字列) です。

SNMP 認証およびプライバシー プロトコルの構成

SNMP v3 は、オプションとして認証およびプライバシー プロトコルをサポートしています。

認証は、ユーザーの ID を確認するために使用します。プライバシーを使用すると、SNMP v3 メッセージを暗号化してデータの機密性を保証できます。プライバシー プロトコルは、セキュリティのためにコミュニティ文字列を使用する SNMP v1 および v2c より高いレベルのセキュリティを備えています。

認証およびプライバシーは、どちらもオプションです。ただし、プライバシーを有効にする場合は、認証を有効にする必要があります。

SNMP v3 の認証およびプライバシー プロトコルはライセンス供与されている vSphere 機能であり、一部の vSphere エディションでは使用できない可能性があります。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 (オプション) `snmp.set --authentication` コマンドを実行して、認証を構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --authentication protocol
```

ここで *protocol* には、**none**（認証なし）、**SHA1**、または **MD5** のいずれかを指定します。

- 3 (オプション) `snmp.set --privacy` コマンドを実行して、プライバシー プロトコルを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --privacy protocol
```

ここで *protocol* には、**none**（プライバシーなし）または **AES128** を指定します。

SNMP ユーザーの設定

SNMP v3 情報にアクセスできるユーザーを、5 人まで設定できます。ユーザー名は、32 文字以下にする必要があります。

ユーザーを設定では、ユーザーユーザーの認証パスワードおよびプライバシー パスワードと SNMP エージェントのエンジン ID に基づいて、認証およびプライバシーのハッシュ値が生成されます。ユーザーの設定後にエンジン ID、認証プロトコル、またはプライバシー プロトコルを変更した場合、ユーザーは無効になり、再設定が必要になります。

前提条件

- ユーザーを設定する前に、認証プロトコルとプライバシー プロトコルが設定されていることを確認します。
- 設定する各ユーザーの認証パスワードとプライバシー パスワードを確認します。パスワードは 7 文字以上にする必要があります。これらのパスワードは、ホスト システムのファイルに保存します。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは `root` です。

- 2 認証またはプライバシー保護を使用している場合は、`snmp.hash --auth_hash --priv_hash` コマンドを実行して、ユーザーの認証およびプライバシー保護のハッシュ値を取得します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.hash --auth_hash secret1 --priv_hash secret2
```

ここで *secret1* はユーザーの認証パスワードが含まれるファイルへのパスで、*secret2* はユーザーのプライバシー パスワードが含まれるファイルへのパスです。または、`--raw_secret` フラグを指定して、ブール値パラメータを `true` に設定できます。

認証とプライバシーのハッシュ値が表示されます。

- 3 `snmp.set --users` を実行して、ユーザーを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --users userid/authhash/privhash/security
```

コマンドのパラメータは次のとおりです。

パラメータ	説明
<i>userid</i>	ユーザー名で置き換えます。
<i>authhash</i>	認証ハッシュ値で置き換えます。
<i>privhash</i>	プライバシー ハッシュ値で置き換えます。
<i>security</i>	ユーザーに対して有効なセキュリティレベルで置き換えます。 auth （認証のみ）、 priv （認証とプライバシー保護）、 none （認証もプライバシー保護もなし）のいずれかを指定できます。

SNMP v3 ターゲットの構成

SNMP エージェントによる SNMP v3 トラップの送信が許可されるように SNMP v3 ターゲットを構成します。

最大 3 つの SNMP v1 または v2c ターゲットに加えて、SNMP v3 ターゲットを 3 つまで構成できます。

ターゲットを構成するには、トラップを受信するシステムのホスト名または IP アドレス、ユーザー名、セキュリティレベル、およびトラップを送信するかどうかを指定する必要があります。セキュリティレベルには、**none**（セキュリティなし）、**auth**（認証のみ）、または **priv**（認証とプライバシー）を指定できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは **root** です。

- 2 `snmp.set --v3targets` コマンドを実行して、SNMP v3 ターゲットを設定します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --v3targets hostname@port/userid/secLevel/trap
```

コマンドのパラメータは次のとおりです。

パラメータ	説明
ホスト名	トラップを受信する管理システムのホスト名または IP アドレスで置き換えます。
ポート	トラップを受信する管理システムのポートで置き換えます。ポートを指定しない場合、デフォルトのポート 161 が使用されます。
<i>userid</i>	ユーザー名で置き換えます。
<i>secLevel</i>	none 、 auth 、 priv のいずれかで置き換えて、構成した認証とプライバシーのレベルを示します。認証のみを構成した場合は auth 、認証とプライバシーの両方を構成した場合は priv 、どちらも構成していない場合は none を使用します。

- 3 （オプション）SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。
- 4 （オプション）`snmp.test` コマンドを実行し、テストトラップを送信してエージェントが正しく構成されていることを確認します。

エージェントは、構成されたターゲットに `warmStart` トラップを送信します。

通知をフィルタリングするように SNMP エージェントを構成する

SNMP 管理ソフトウェアが通知を受信しないようにする場合は、それらの通知を除外するように vCenter Server Appliance SNMP エージェントを構成します。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `snmp.set --notraps` コマンドを実行してトラップをフィルタリングします。

- 特定のトラップをフィルタリングするには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --notraps oid_list
```

ここで、`oid_list` は、フィルタリングするトラップのオブジェクト ID のコンマ区切りリストです。このリストは、以前このコマンドを使用して指定したオブジェクト ID をすべて置き換えます。

- すべてのトラップ フィルタをクリアするには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --notraps reset
```

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。

指定したオブジェクト ID で特定されるトラップは、SNMP エージェントの出力から除外され、SNMP 管理ソフトウェアには送られません。

SNMP 管理クライアント ソフトウェアの構成

トラップを送信するように vCenter Server Appliance を構成したら、これらのトラップを受信して解釈するように、管理クライアント ソフトウェアを構成する必要があります。

管理クライアント ソフトウェアを構成するには、管理対象デバイスのコミュニティを指定し、ポート設定を構成し、VMware MIB ファイルをロードします。これらのステップの具体的な説明については、管理システムのドキュメントを参照してください。

前提条件

次の VMware Web サイトから VMware MIB ファイルをダウンロードします。<http://communities.vmware.com/community/developer/managementapi>

手順

- 1 管理ソフトウェアで、SNMP ベースの管理対象デバイスとして vCenter Server Appliance を指定します。

- 2 SNMP v1 または v2c を使用している場合は、適切なコミュニティ名を管理ソフトウェアに設定します。

これらの名前は、vCenter Server Appliance での SNMP エージェントのコミュニティ設定と一致している必要があります。

- 3 SNMP v3 を使用している場合は、vCenter Server Appliance での構成と一致するように、ユーザー、認証、プライバシー プロトコルを構成します。
- 4 デフォルトの UDP ポート 162 以外の管理システムのポートにトラップを送信するように SNMP エージェントを構成した場合、構成したポートで待機するように管理クライアント ソフトウェアを構成します。
- 5 VMware MIB を管理ソフトウェアにロードします。これにより、vCenter Server Appliance 変数のシンボル名が表示されます。

検索エラーを防ぐために、他の MIB ファイルをロードする前に、次の順序で MIB ファイルをロードします。

- a VMWARE-ROOT-MIB.mib
- b VMWARE-TC-MIB.mib
- c VMWARE-PRODUCTS-MIB.mib

これで、管理ソフトウェアが vCenter Server Appliance からのトラップを受信し、解釈できるようになります。

工場出荷時の設定への SNMP 設定のリセット

SNMP 設定を工場出荷時の設定にリセットできます。また、特定の引数の値を工場出荷時の設定にリセットすることもできます。

コミュニティやターゲットなどの特定の引数をリセットできます。また、SNMP 構成を工場出荷時の設定にリセットすることもできます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 特定の引数をリセットするには、コマンド `snmp.set --arguments reset` を実行します。

たとえば、構成したコミュニティをリセットするには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --communities reset
```

- 3 SNMP 構成全体を工場出荷時の設定にリセットするには、コマンド `snmp.reset` を実行します。

vCenter Server Appliance の時刻同期設定の構成

デプロイ後、vCenter Server Appliance の時刻同期設定を変更できます。

vCenter Server Appliance をデプロイする場合は、NTP サーバまたは VMware Tools を使用して、時刻同期方法を選択できます。vSphere ネットワークの時刻設定が変更された場合は、アプライアンス シェルのコマンドを使用して、vCenter Server Appliance を編集し、時刻同期設定を構成します。

定期的な時刻同期を有効にすると、VMware Tools はゲスト OS の時刻をホストの時刻と一致させます。

時刻同期が実行された後、VMware Tools は毎分、ゲスト OS の時計とホストの時計が一致しているかどうかを確認します。一致していない場合は、ゲスト OS の時計がホストの時計と一致するよう同期がとられます。

一般に、Network Time Protocol (NTP) などのネイティブの時刻同期ソフトウェアのほうが VMware Tools による定期的な時刻同期よりも正確であるため、NTP の使用が推奨されます。vCenter Server Appliance で使用できる定期的な時刻同期の形式は 1 つだけです。ネイティブの時刻同期ソフトウェアと vCenter Server Appliance VMware Tools による定期的な時刻同期のいずれか一方を選択すると、他方は無効化されます。

VMware Tools の時刻同期の使用

VMware Tools の時刻同期を使用するように、vCenter Server Appliance を設定できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 次のコマンドを実行して、VMware Tools の時刻同期を有効にします。

```
timesync.set --mode host
```

- 3 (オプション) 次のコマンドを実行して、VMware Tools の時刻同期が正常に適用されたことを確認します。

```
timesync.get
```

コマンドにより、時刻同期がホスト モードであることが返されます。

アプライアンスの時刻は ESXi ホストの時刻と同期されます。

vCenter Server Appliance 構成内の NTP サーバの追加または置換

NTP ベースの時刻同期を使用するように vCenter Server Appliance を設定するには、NTP サーバを vCenter Server Appliance 構成に追加する必要があります。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `ntp.server.add` コマンドを実行して、NTP サーバを vCenter Server Appliance 構成に追加します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
ntp.server.add --servers IP-addresses-or-host-names
```

ここで *IP-addresses-or-host-names* は、NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名のコンマ区切りのリストです。

このコマンドにより、NTP サーバが構成に追加されます。時刻同期が NTP サーバに基づいている場合は、NTP デーモンが再起動され、新しい NTP サーバが再ロードされます。そうでない場合は、既存の NTP 構成に新しい NTP サーバが追加されるだけです。

- 3 (オプション) 古い NTP サーバを削除して、新しい NTP サーバを vCenter Server Appliance 構成に追加するには、`ntp.server.set` コマンドを実行します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
ntp.server.set --servers IP-addresses-or-host-names
```

ここで *IP-addresses-or-host-names* は、NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名のコンマ区切りのリストです。

このコマンドにより、古い NTP サーバが構成から削除され、入力された NTP サーバが構成内で設定されます。時刻同期が NTP サーバに基づいている場合は、NTP デーモンが再起動され、新しい NTP 構成が再ロードされます。そうでない場合は、NTP 構成内のサーバが、入力値として指定したサーバに置換されるだけです。

- 4 (オプション) 次のコマンドを実行し、NTP 構成の新しい設定が正常に適用されたことを確認します。

```
ntp.get
```

このコマンドは、NTP 同期が構成されているサーバの名前をスペースで区切ったリストを返します。NTP 同期が有効になっていると、このコマンドは [接続中] ステータスの NTP 構成を返します。NTP 同期が無効になっていると、このコマンドは [切断] ステータスの NTP 構成を返します。

次のステップ

NTP 同期が無効になっている場合は、NTP サーバをベースにするように vCenter Server Appliance の時間同期設定を構成できます。[vCenter Server Appliance と NTP サーバとの時刻同期](#) を参照してください。

vCenter Server Appliance と NTP サーバとの時刻同期

NTP サーバを使用するように vCenter Server Appliance の時刻同期設定を構成できます。

前提条件

vCenter Server Appliance 構成内に 1 つ以上の Network Time Protocol (NTP) サーバを設定します。[vCenter Server Appliance 構成内の NTP サーバの追加または置換](#) を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 次のコマンドを実行して、NTP ベースの時刻同期を有効にします。

```
timesync.set --mode NTP
```

- 3 (オプション) 次のコマンドを実行して、NTP の同期が正常に適用されたことを確認します。

```
timesync.get
```

コマンドにより、時刻同期が NTP モードであることが返されます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの管理

スーパー管理者としてアプライアンス シェルにログインすると、アプライアンス シェルでコマンドを実行して vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントを管理できます。スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

vCenter Server Appliance のユーザー ロール

vCenter Server Appliance には、3 つの主要なユーザー ロールがあります。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザーには、vCenter Server Appliance のさまざまなタスクを実行する権限があります。vCenter Server Appliance では、次の 3 つのユーザー ロールを使用できます。

オペレータ	オペレータ ユーザー ロールを持つローカル ユーザーは、アプライアンス構成を読み取ることができます。
管理者	管理者ユーザー ロールを持つローカル ユーザーは、アプライアンスを構成できます。
スーパー管理者	スーパー管理者ユーザー ロールを持つローカル ユーザーは、アプライアンスを構成したり、ローカル アカウントを管理したり、Bash シェルを使用したりできます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウント リストの取得

ローカル ユーザー アカウントのリストを確認して、アプライアンス シェルから管理するユーザー アカウントを決定できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.list` コマンドを実行します。

ローカル ユーザーのリストを確認できます。ユーザーに関する情報には、ユーザー名、ステータス、ロール、パスワードのステータス、フル ネームおよび E メールが含まれます。

注: ローカル ユーザーのリストには、デフォルトのシェルがアプライアンス シェルになっているローカル ユーザーのみが含まれます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの作成

vCenter Server Appliance で、新しいローカル ユーザー アカウントを作成できます。

ユーザー ロールの詳細については、[vCenter Server Appliance のユーザー ロール](#)を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.add --role --username --password` コマンドを実行します。

たとえば、オペレータ ユーザー ロールがあるローカル ユーザー アカウント test を追加するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.add --role operator --username test --password
```

また、新しいローカル ユーザー アカウントを設定し、ユーザーの電子メールとフル ネームを指定することもできます。たとえば、ユーザー ロールがオペレータ、フル ネームが TestName、電子メール アドレスが test1@mymail.com のローカル ユーザー アカウント test1 を追加するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.add --role operator --username test1 --password --fullname TestName --email test1@mymail.com
```

フル ネームにスペースは使用できません。

- 3 プロンプトが表示されたら、新しいローカル ユーザーのパスワードを入力して確定します。

アプライアンスに新しいローカル ユーザーが作成されます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー パスワードの更新

セキュリティ上の理由から、vCenter Server Appliance でローカル ユーザーのパスワードを更新できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.password.update --username` コマンドを実行します。

たとえば、ユーザー名が test のユーザーのパスワードを変更するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.password.update --username test
```

- 3 プロンプトが表示されたら、新しいパスワードを入力して確定します。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの更新

vCenter Server Appliance で、既存のローカル ユーザー アカウントを更新できます。

ユーザー ロールの詳細については、[vCenter Server Appliance のユーザー ロール](#)を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

2 localaccounts.user.set --username コマンドを実行し、既存のローカル ユーザーを更新します。

- ローカル ユーザーのロールを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --role new role
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*new role* は新しいロールです。ロールは、**operator**、**admin**、または **superAdmin** になります。

- ローカル ユーザーの電子メールを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --email new email address
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*new email address* は新しい電子メール アドレスです。

- ローカル ユーザーのフル ネームを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --fullname new full name
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*new full name* はユーザーの新しいフル ネームです。

- ローカル ユーザーのステータスを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --status new status
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*status* はローカル ユーザーの新しいステータスです。ステータスは、**disabled** か **enabled** のいずれかとなります。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの削除

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントを削除することができます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは **root** です。

- 2 localaccounts.user.delete --username コマンドを実行します。

たとえば、**test** というユーザー名のユーザーを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.delete --username test
```

ユーザーが削除されます。

vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視

アプライアンス シェルの API コマンドを使用して、vCenter Server Appliance のハードウェア健全性ステータスを監視できます。使用可能なパッチに関する情報を得るために、更新コンポーネントの健全性ステータスを監視することもできます。

使用可能なパッチの最終チェックに従ってソフトウェア パッケージが最新かどうかを示す更新コンポーネントだけでなく、メモリ、CPU、ストレージ、ネットワークなどのハードウェア コンポーネントのステータスも確認できます。

個々の健全性ステータスは緑、黄、オレンジ、赤、または灰色です。詳細については、[vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認](#) を参照してください。

vCenter Server Appliance システムの統計および健全性の監視に使用できる API コマンドの完全なリストについては、[vCenter Server Appliance シェルの API コマンド](#) を参照してください。

手順

1 アプライアンス シェルにアクセスして、ログインします。

オペレータ、管理者、またはスーパー管理者のユーザー ロールを持つユーザーのユーザー名を使用してログインできます。

2 個々のコンポーネントの健全性ステータスを表示します。

- vCenter Server Appliance のメモリの健全性を表示するには、`mem.health.get` コマンドを実行します。
- vCenter Server Appliance のストレージの健全性を表示するには、`storage.health.get` コマンドを実行します。
- vCenter Server Appliance のスワップの健全性を表示するには、`swap.health.get` コマンドを実行します。
- vCenter Server Appliance の更新コンポーネントの健全性を表示するには、`softwarepackages.health.get` コマンドを実行します。

重要: 使用可能なパッチの定期的なチェックを実行しないと、更新コンポーネントの健全性ステータスが旧バージョンになることがあります。vCenter Server Appliance パッチのチェック方法と vCenter Server Appliance パッチの自動チェックを有効にする方法の詳細については、[vSphere のアップグレード](#) を参照してください。

- vCenter Server Appliance システムの全体的な健全性を表示するには、`system.health.get` コマンドを実行します。

3 特定のハードウェア コンポーネントに関する統計情報を表示するには、それぞれのコマンドを実行します。

たとえば、各論理ディスクのストレージ統計情報を表示するには、`storage.stats.list` コマンドを実行します。

サービスのリソース使用量を監視する vimtop プラグインの使用

vimtop ユーティリティ プラグインを使用して、vCenter Server Appliance で実行されている vSphere サービスを監視できます。

vimtop は esxtop に似たツールで、vCenter Server Appliance の環境で実行されます。アプライアンス シェルで vimtop のテキストベースのインターフェイスを使用することにより、vCenter Server Appliance に関する全体的な情報、および vSphere サービスの一覧とそのリソースの使用状況を表示することができます。

- **対話モードでの vimtop を使用したサービスの監視**

vimtop プラグインを使用して、サービスをリアルタイムで監視できます。

- **対話モードのコマンドライン オプション**

vimtop コマンドを使用する場合は、対話モードでさまざまなコマンドライン オプションを使用してプラグインにアクセスできます。

- **vimtop の対話モードの単一キー コマンド**

対話モードで実行されている場合、vimtop は、いくつかの単一キー コマンドを認識します。

対話モードでの vimtop を使用したサービスの監視

vimtop プラグインを使用して、サービスをリアルタイムで監視できます。

vimtop 対話モードのデフォルト ビューは、概要テーブルとメイン テーブルで構成されています。対話モードで単一キー コマンドを使用して、プロセスからディスクまたはネットワークにビューを切り替えることができます。

手順

- 1 SSH クライアント プログラムから、vCenter Server Appliance シェルにログインします。
- 2 vimtop コマンドを実行して、対話モードでプラグインにアクセスします。

対話モードのコマンドライン オプション

vimtop コマンドを使用する場合は、対話モードでさまざまなコマンドライン オプションを使用してプラグインにアクセスできます。

表 4-4. 対話モードのコマンドライン オプション

オプション	説明
-h	vimtop のコマンドライン オプションのヘルプを印刷します。
-v	vimtop のバージョン番号を印刷します。
-c <i>filename</i>	ユーザー定義の vimtop 構成ファイルをロードします。-c オプションを使用しない場合のデフォルト構成ファイルは、/root/vimtop/vimtop.xml です。 W 単一キー対話コマンドを使用することにより、別のファイル名とパスを指定して、独自の構成ファイルを作成できます。
-n <i>number</i>	vimtop で対話モードを終了するまでの反復実行回数を設定します。vimtop は、表示の実行回数 (<i>number</i>) を更新して終了します。デフォルト値は 10000 です。
-p / -dseconds	更新間隔を秒単位で設定します。

vimtop の対話モードの単一キー コマンド

対話モードで実行されている場合、vimtop は、いくつかの単一キー コマンドを認識します。

対話モードのパネルはすべて、次の表に一覧表示されているコマンドを認識します。

表 4-5. 対話モードの単一キー コマンド

キー名	説明
時	コマンドの概略とセキュア モードの状態を示した、現在のパネルのヘルプ メニューが表示されます。
i	vimtop プラグインの概要パネルの最上部行ビューを表示/非表示にします。
t	vCenter Server インスタンスで現在実行されているタスクに関する情報が表示される概要パネルの [タスク] セクションを表示/非表示にします。
分	概要パネルの [メモリ] セクションを表示/非表示にします。
f	すべての使用可能な CPU に関する情報が表示される概要パネルの [CPU] セクションを表示/非表示にします。
g	上位 4 つの物理 CPU に関する情報が表示される概要パネルの [CPU] セクションを表示/非表示にします。
スペースバー	現在のペインをすぐに更新します。
p	現在のパネルで、表示されているサービス リソースの使用状況に関する情報を一時停止します。
r	現在のパネルで、表示されているサービス リソースの使用状況に関する情報を更新します。
秒	更新間隔を設定します。
q	vimtop プラグインの対話モードを終了します。
k	メイン パネルの [ディスク] ビューを表示します。
o	メイン パネルを [ネットワーク] ビューに切り替えます。
Esc	選択をクリアするか、メイン パネルの [プロセス] ビューに戻ります。
Enter	サービスを選択して追加の詳細を表示します。
n	メイン パネルでのヘッダの名前を表示/非表示にします。
u	メイン パネルでのヘッダの測定単位を表示/非表示にします。
左右矢印	列を選択します。
上下矢印	行を選択します。
<、>	選択した列を移動します。
削除	選択した列を削除します。
c	メイン パネルの現在のビューに新しい列を追加します。スペースバーを使用して、表示されたリストの列を追加または削除します。
a	選択した列を昇順に並べ替えます。
日	選択した列を降順に並べ替えます。
z	すべての列の並べ替え順序をクリアします。
l	選択した列の幅を設定します。
x	列の幅をデフォルト値に戻します。
" +	選択したアイテムを展開します。

キー名	説明
-	選択したアイテムを折りたたみます。
w	現在のセットアップを vimtop 構成ファイルに書き込みます。デフォルトのファイル名は、-c オプションによって指定した名前か、-c オプションを使用していない場合には /root/vimtop/vimtop.xml です。w コマンドによって生成されるプロンプトで別のファイル名を指定することもできます。

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する

5

vCenter Server Appliance をデプロイしたら、ネットワーク設定を再構成し、Bash シェルへのアクセスを有効にしてトラブルシューティングできます。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにアクセスするには、root としてログインする必要があります。

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのホーム ページには、vCenter Server Appliance のサポート バンドルへのリンクがあります。サポート バンドルへのリンクの形式は、`https://appliance-host-name:443/appliance/support-bundle` です。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへのログイン](#)
- [root ユーザーのパスワードの変更](#)
- [vCenter Server Appliance の管理ネットワークの構成](#)
- [vCenter Server Appliance の管理ネットワークの再起動](#)
- [アプライアンス Bash シェルへのアクセスの有効化](#)
- [トラブルシューティングのためのアプライアンス Bash シェルへのアクセス](#)
- [トラブルシューティングのための vCenter Server サポート バンドルのエクスポート](#)

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへのログイン

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスでは、テキストベースのメニューを使用して、アプライアンスとローカルに通信できます。

手順

- 1 vSphere Web Client または vSphere Client インベントリの vCenter Server Appliance を参照します。
- 2 サマリ タブで、**コンソールの起動** をクリックします。
- 3 コンソール ウィンドウの内部をクリックし、F2 を押して、システムをカスタマイズします。
- 4 アプライアンスの root ユーザーのパスワードを入力して、Enter を押します。

重要: 無効な認証情報を 3 回入力すると、ルート アカウントが 5 分間ロックされます。

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインしました。vCenter Server Appliance の root ユーザーのパスワードの変更、ネットワーク設定の編集、vCenter Server Appliance Bash シェルへのアクセスの有効化を行うことができます。

root ユーザーのパスワードの変更

vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへの不正アクセスを回避するために、root ユーザーのパスワードを変更できます。

vCenter Server Appliance のデフォルトの root パスワードは、仮想アプライアンスのデプロイ中に入力するパスワードです。

重要: vCenter Server Appliance の root アカウントのパスワードは、365 日後に期限が切れます。vCenter Server Appliance の Bash シェルに root としてログインし、`chage -M number_of_days -W warning_until_expiration user_name` を実行することによって、アカウントの有効期限を変更できます。root パスワードの有効期限を無限に延長するには、`chage -M -1 -E -1 root` コマンドを実行します。

手順

- 1 vSphere Web Client または vSphere Client インベントリの vCenter Server Appliance を参照します。
- 2 サマリ タブで **コンソールの起動** をクリックします。
- 3 コンソール ウィンドウの内部をクリックし、F2 を押して、システムをカスタマイズします。
- 4 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインするには、root ユーザーの現在のパスワードを入力して、Enter を押します。
- 5 **ルート パスワードの構成** を選択して、Enter を押します。
- 6 root ユーザーの旧パスワードを入力して、Enter を押します。
- 7 新しいパスワードを設定して、Enter を押します。
- 8 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのメイン メニューに戻るまで、Esc を押します。

アプライアンスの root ユーザーのパスワードが変更されました。

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの構成

vCenter Server Appliance は、DHCP サーバからネットワーク設定を取得できます。また、固定 IP アドレスを使用することもできます。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスで、vCenter Server Appliance のネットワーク設定を変更できます。IPv4、IPv6、および DNS 構成を変更できます。

前提条件

アプライアンスの IP アドレスを変更する場合は、アプライアンスのシステム名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。アプライアンスのデプロイ中にシステム名として IP アドレスを設定すると、システム名がブライマリ ネットワークの識別子として使用されるので、デプロイ後に IP アドレスを変更できなくなります。

手順

- 1 vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 **管理ネットワークの構成** を選択して、Enter を押します。
- 3 **IP 構成** で、IPv4 設定を変更します。

オプション	説明
動的 IP アドレスおよびネットワーク構成を使用	ネットワークに使用可能な DHCP サーバがある場合、DHCP サーバからネットワーク設定を取得します。
固定 IP アドレスおよびネットワーク構成を設定	固定ネットワーク構成を設定します。

- 4 **IPv6 構成** で、IPv6 設定を変更します。

オプション	説明
IPv6 の有効化	アプライアンスの IPv6 を有効または無効にします。
DHCP ステートフル構成を使用	DHCP サーバを使用して、IPv6 アドレスおよびネットワーク設定を取得します。
ICMP ステートレス構成を使用	ステートレス アドレス自動構成 (SLAAC) を使用して、IPv6 アドレスとネットワーク設定を取得します。

- 5 **DNS 構成** で、DNS 設定を変更します。

オプション	説明
DNS サーバアドレスおよびホスト名を自動的に取得	DNS サーバアドレスおよびホスト名を自動的に取得します。 アプライアンスの IP 設定が DHCP サーバから自動的に取得される場合は、このオプションを使用します。
次の DNS サーバアドレスとホスト名を使用	DNS サーバの固定 IP アドレスとホスト名を設定します。

- 6 **カスタム DNS サフィックス** で、カスタム DNS サフィックスを設定します。
サフィックスを指定しない場合は、デフォルトのサフィックス リストがローカル ドメイン名から生成されます。
- 7 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのメイン メニューに戻るまで、Esc を押します。

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの再起動

vCenter Server Appliance の管理ネットワークを再起動して、ネットワーク接続を復元します。

手順

- 1 vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 **管理ネットワークの再起動** を選択して、Enter を押します。
- 3 F11 を押します。

アプライアンス Bash シェルへのアクセスの有効化

アプライアンスのダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して、アプライアンス Bash シェルへのローカル アクセスおよびリモート アクセスを有効にできます。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して有効にした Bash シェル アクセスは、3600 秒間、有効な状態が維持されます。

手順

- 1 vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 **トラブルシューティング オプション** を選択し、Enter を押します。
- 3 [トラブルシューティング モード オプション] メニューから、Bash シェルを有効にするか SSH を有効にするかを選択します。
- 4 Enter を押してサービスを有効にします。
- 5 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのメイン メニューに戻るまで、Esc を押します。

次のステップ

vCenter Server Appliance の Bash シェルにアクセスして、トラブルシューティングを行います。

トラブルシューティングのためのアプライアンス Bash シェルへのアクセス

トラブルシューティングのためにのみ、vCenter Server Appliance シェルにログインします。

手順

- 1 次のいずれかの方法を使用して、アプライアンス シェルにアクセスします。
 - アプライアンスに直接アクセスできる場合は、Alt + F1 を押します。
 - リモート接続する場合は、SSH などのリモート コンソール接続を使用して、アプライアンスへのセッションを開始します。
- 2 アプライアンスで認識されるユーザー名とパスワードを入力します。
- 3 アプライアンス シェルで、`pi shell` または `shell` コマンドを入力して、Bash シェルにアクセスします。

トラブルシューティングのための vCenter Server サポート バンドルのエクスポート

トラブルシューティングのために、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスのサポート バンドルをエクスポートする場合は、DCUI のホーム画面に表示される URL を使用できます。

`vc-support.sh` スクリプトを実行することにより、vCenter Server Appliance Bash シェルからサポート バンドルを収集することもできます。

サポート バンドルは、.tgz 形式でエクスポートされます。

手順

- 1 バンドルをダウンロードする Windows ホスト マシンにログインします。
- 2 Web ブラウザを開き、DCUI に表示されているサポート バンドルへの URL を入力します。
`https://appliance-fully-qualified-domain-name:443/appliance/support-bundle`
- 3 ルート ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
- 4 **Enter** をクリックします。
サポート バンドルは、.tgz ファイルとして Windows マシンにダウンロードされます。